



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～

令和3年 10月29日 11月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 黒木 健

自分だけのオリジナルノート作り

校長 黒木 健

日々秋の深まりを感じる季節となって参りましたが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、25日（月）に開催されました「丘リンピック - 運動会」では、感染防止対策にご協力をいただき、誠にありがとうございました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の観点から、一昨年度の内容から規模を大幅に縮小すると共に、今年度については、さらに学年ブロック毎の入替制を取らせていただき、保護者の皆様には大変にご不便をおかけいたしました。今後も引き続き、感染防止に努めながら学校運営を行って参りますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。さて、今月の学校だよりは、「自分だけのオリジナルノート作り」と題して、話をさせていただきます。

先日、ある児童のノートを見ていて、その素晴らしさに深い感銘を受けました。そのノートは、既習事項が時系列できれいにまとめられているだけでなく、その単元毎のまとめや、またそこでの学習を通じて知ったある規則性などが、ノートの右上にきちんと整理されていて、後になって読み返した時でも、学習した内容が抵抗感なく頭の中に再現できるに違いないと感じられるような作りになっていました。ノート作りとは、例えばこのように、後でそれを見た時に、学習した内容が頭の中で直ぐに再生できたり、再確認できたりするような仕立てのものが良いと思っています。

自分も児童生徒だった頃、学習した内容を効率よく頭に収めるために、ノート作りには様々な工夫を凝らしてきました。その中で気付いたことは、1. ノートは長々と文章で書いてしまうと、後で見直す時に、ノートそのものを最初から読み返すこととなり、読み直す、再確認する、そして覚えるといった複数の作業を同時並行で行わなければならない、結果として学習効率が上がらないこと。2. ノートはどう工夫すれば、自分の頭の中に学習した内容がきちんと整理され、且つ収納されやすくなるのかということ強く意識すること。3. ノート上で学習した内容をどのような位置関係でまとめ上げれば、その全体像が瞬時に再生、再確認されやすくなるのかなどといったことでした。

またノートは学習したことをまとめるという機能だけでなく、メモを取ったり、アイデアを書き留めておく場でもあると思っています。私も、その時にふと浮かんだキーワードや、それを補完する具体例などをとっさにメモすることもあれば、また、知らなかった語彙や今後も使えそうなセンテンス、そして興味をもった記事に自分なりのコメントを付した物などまで、その内容は実に様々です。これまではっきりとはしていなかった自分の考えを、ノートに書くことによってそれが「言語化」され、且つその事柄がはっきりと「見える化」されるようになることで、新しい情報が頭の中に入りやすくなっていったという経験が幾度となくありました。今月の前期終業式の中で、子どもたちに、「ふと思いついたアイデアや、その時に感じたことなどは、その都度ノートにメモしておくことが大切で、突然何か文章を書こうとしても、誰でもそう簡単に書けるものではなく、日頃から頭に浮かんだことは、忘れないうちにノートに書き留めておく習慣を身につけてみてはどうでしょうか。」と投げかけました。もし一冊のノートがメモで埋まり切ったら、そのノートは、お子様にとっての一つの「知の宝庫」になるのかもしれません。